

STAR

水田ハロー

取扱説明書・部品表

製品コード K26995 ・K26996 ・K26997 ・K26998
型 式 MPE1810・MPE1810-0S・MPE1810-3S・MPE1810-4S
部品供給型式 APE1810-02

製品コード K26999 ・K27000 ・K27021 ・K27022
型 式 MPE2010・MPE2010-0S・MPE2010-3S・MPE2010-4S
部品供給型式 APE2010-02

製品コード K27023 ・K27024 ・K27025 ・K27026
型 式 MPE2210・MPE2210-0S・MPE2210-3S・MPE2210-4S
部品供給型式 APE2210-02

部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

STAR-農機株式会社

SFAA

⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、⚠印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

⚠ **危険**

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

⚠ **警告**

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

⚠ **注意**

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

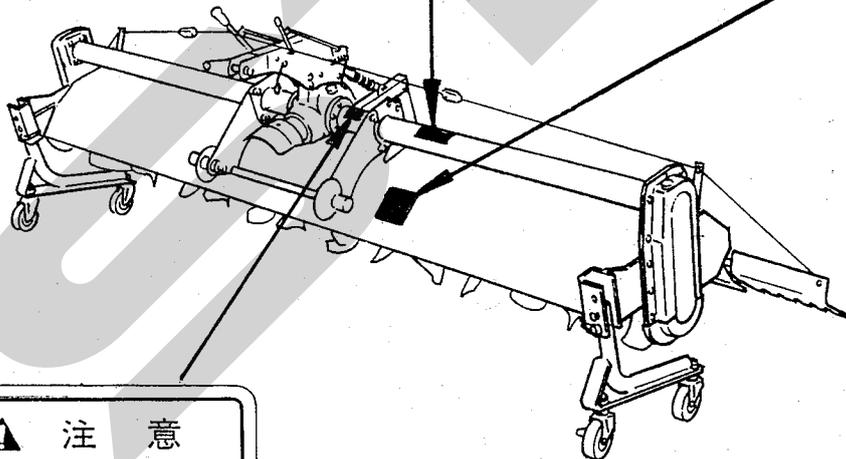
⚠ **注意**



本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。

1. 作業に適した、だぶつきのない服装で行ってください。
2. 酒を飲んだとき、過労さみ、病氣や経絡しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。

部品番号 106164



⚠ **注意**

運転中又は回転中、P I C軸に接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。

手を入れないで下さい。

部品番号 106177

⚠ **警告**



運転中又は回転中、ロータに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。

作業中、周囲に人を近づけないで下さい。

部品番号 106176

— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- 帽子を着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジン始動・発進する時は

▲警告

- エンジンを始動するとき、トラクタの横やステップに立ったまま行くと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。
- PTOを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。PTOを切ってから始動してください。

- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気してください。

作業機を着脱する時は

▲警告

- 作業機を着脱するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間如果有人がいると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間を近づけないでください。

▲注意

- 作業機をトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用する時は

▲危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けずに使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損してケガをする事があります。最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、

ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。適正な重なり量で使用してください。

- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに作業機を装着しての走行はしないでください。

移動走行する時は

▲危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。トラクタには、運転者以外の人を乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。低速走行してください。
- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突しケガをする事があります。周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガ

をすることがあります。

あゆみ板を使用してください。

- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。

また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせることがあります。

作業機の上には、人や物などはのせないでください。

▲注意

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせることがあります。

移動走行する時は、PTOを切ってください。

作業中は

作業する時は

▲警告

- 運転中又は回転中、ロータに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。

作業中、周囲に人を近づけないでください。

- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをすることがあります。

周囲に人を近づけないでください。

- 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをすることがあります。

指定回転速度を守ってください。

- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。

また、物を載せて作業すると、落下し、周囲の人へケガを負わせることがあります。

作業機の上には、人や物などはのせないでください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こすことがあります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こすことがあります。

しっかりとハンドルを握って運転してください。

▲注意

- 運転中又は回転中、P I C軸に接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。

手を入れないでください。

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機

が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

トラクタから離れる時は

▲警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こすことがあります。

平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

- トラクタから離れる時、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをすることがあります。

下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをすることがあります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをすることがあります。

作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをすることがあります。

トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをすることがあります。
トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
元通りに取り付けてください。

も く じ



安全に作業するために

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	4
作業前に	2	不調処置・点検・整備をする時	5
作業中は	4		

1

トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	8	6 パワージョイントの装着	14
2 適応トラクタの範囲	10	1. 長さの確認方法	14
3 組立部品	10	2. 切断方法	15
1. 解 梱	10	3. 安全カバーの着脱方法	15
2. 組立部品の明細	10	4. パワージョイントの連結	16
3. 組 立	10	(1) 広角ジョイントの取り付け	16
4 オ プ シ ョ ン	11	(2) 作業機への連結	16
1. アゼギワツメ取付要領	11	① 標準タイプ、3 Sタイプの場合	16
2. アゼギワツメAS;L部品表	11	② 4 Sタイプの場合	16
3. アゼギワツメAS;R部品表	11	③ 0 Sタイプの場合	16
5 トラクタへの装着	12	(3) トラクタへの連結	16
1. 装着前の準備	12	(4) 安全カバーチェーンの固定	16
2. 標準タイプの装着	12		
3. 0 S、3 S、4 S、タイプの装着	13		

2

運転を始める前の点検

1 運 転 前 の 点 検	17	3. ハローの点検	17
1. トラクタ各部の点検	17	2 エンジン始動での点検	17
2. 連結部の点検	17	1. トラクタ油圧系統に	
(1) 3点リンクの連結部点検	17	異常はないか	17
(2) パワージョイントの点検	17	3 給油箇所一覧表	18

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的	19	4 作業要領	21
2 各部の調整	19	1. 作業速度	21
1. キンペイバンの可変装置	19	2. PTO回転速度	21
3 作業時の操作	20	3. 逆転PTOについて	21
1. 土寄せ装置の切換	20	4. 作業方法	21
2. ホジョセイチバンの折りたたみ	20	(1) 土寄せ作業	21
		(2) 代かき作業	21
		5. 代かき爪の配列・取り付け方法	22

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	23	3 長期格納する時	23
2 トラクタからの切り離し	23		

5 点検と整備について

1 点検整備一覧表	24
-----------	----

6 不調時の対応

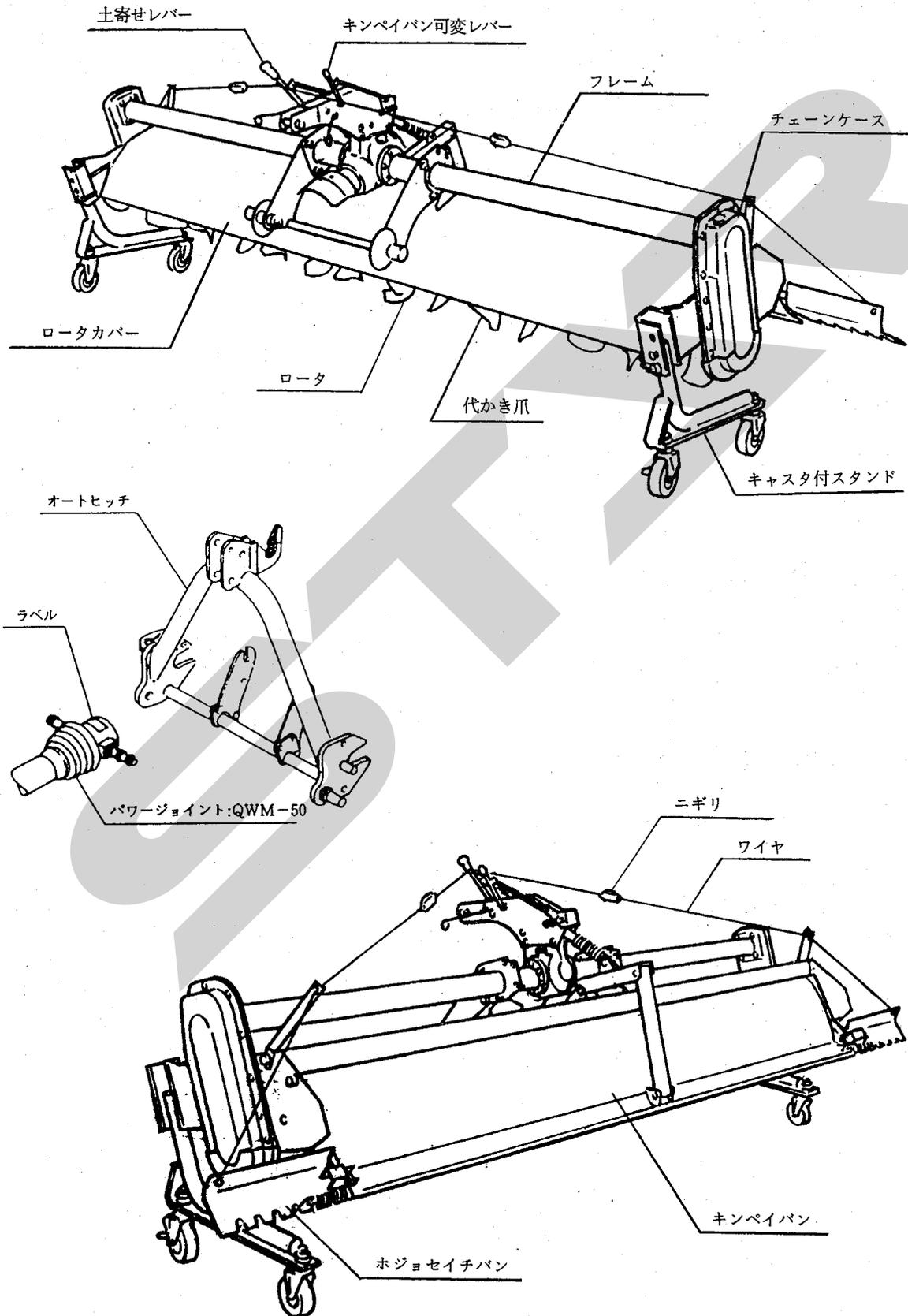
1 不調処置一覧表	25
-----------	----

7 部品表

1 トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



1. 土寄せレバー

稲の植床を作る代かき作業をする場合と、ほ場の高いところの土を移動して、平らにする土寄せ作業をする場合のキンペイバンの操作をするのに使用します。

2. キンペイバン可変レバー

代かき作業時のキンペイバンの押え強さを調節するのに使用します。

3. ニギリ

ワイヤを引っ張って、ホジョセイチバンの開閉をするのに使用します。

4. ロータ

代かき爪をボルトで取り付けるシャフトです。

5. キャスタ付スタンド

トラクタとのマッチング及び格納時等、ハロー単体で移動するのに使用します。

6. キンペイバン

代かき作業時の土の整地や土寄せ作業時の土の移動に使用します。

7. ホジョセイチバン

土を脇に出さないで、継ぎ目をきれいに仕上げるのに使用します。

8. オートヒッチ

注：3P・4P等、以下説明に用いる「P」とはPoint（点）の略で夫々3点（3箇所）、4点（4箇所）の意味を表します。

(1) トラクタの3点装置（3P＝ローリンク2P＋トップリンク1P）を使用して装着（直装）する作業機を対象に、予めトラクタの3Pの作業機装着用のフレームを取付けておき、そのフレームに設けられた3Pと作業機側の3Pを、トラクタ3点装置を上下作動することによって、自動的に着脱する方法を「オートヒッチ」と言い、予めトラクタ3P

に装着するフレームのことを「オートヒッチフレーム」と言います。（「オートヒッチ」との呼び方は、日農工の部会で申し合わされた呼称です。）

この装着状態を3Pオートヒッチ（略して「3P」）と言います。

(2) オートヒッチフレームに、作業機のPIC軸と駆動伝達が自動的に連結される受け装置を設け、上述の3P脱着と同時に、この1Pも同時に装着する状態と4Pオートヒッチ（略して「4P」）と言います。

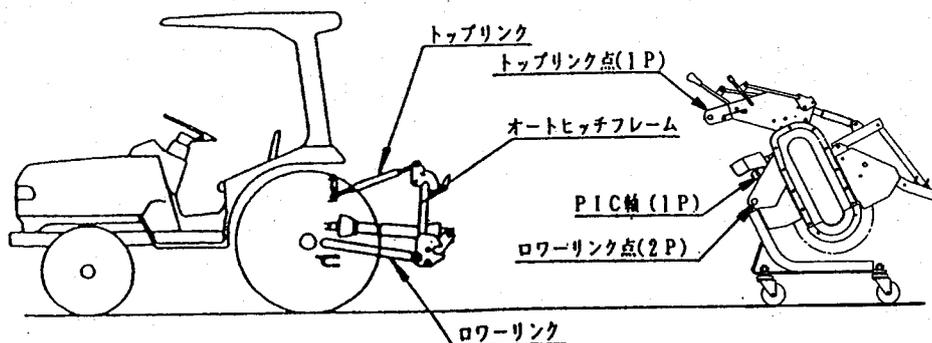
（オートヒッチフレームの駆動受部とトラクタのPTO軸とはパワージョイントで連結されます。）

(3) JIS規格により、トラクタ3Pの寸法が規定されており、「0・I兼用」タイプと「I・II兼用タイプ」があります。オートヒッチにもこの2種類があり、一般的に「0・I兼用」タイプは「S」、「I・II兼用タイプ」は「L」で区分しています。

「0・I兼用」の3P・4Pは3S・4Sで表しています。

Sタイプのセット区分は次のようになっています。

呼び	製品セット構成に伴う装着内容
標準	オートヒッチフレームを使用せず、トラクタ3Pに作業機の3Pを直接装着。
-0S	オートヒッチフレーム、パワージョイントは標準では装備なし。他の作業機の3P・4Pヒッチで装着。
-3S	オートヒッチフレームが標準装備で3P装着、ジョイントは標準のものをあとから装着。
-4S	オートヒッチフレームとクイックジョイント（パワージョイント；QWM-50）が標準装備で4P装着。



2 適応トラクタの範囲

▲ 注意

- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

本製品は適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。
この製品の適応トラクタ馬力は次のとおりです。

型 式	適応トラクタ馬力 (PS)
MPE1810 MPE1810-0 S・3 S・4 S	11 ~ 21
MPE2010 MPE2010-0 S・3 S・4 S	13 ~ 23
MPE2210 MPE2210-0 S・3 S・4 S	16 ~ 28

本製品の適応トラクタより小さなトラクタで使用すると、負荷に対し十分なパワーがでないことがあります。

逆に適用トラクタよりも大きなトラクタでの御使用は、過負荷に対し機体の適正値を越えたパワーが出てしまい、作業機の破損の原因になることがあります。

3 組立部品

1. 解 梱

木枠もしくは金枠に固定している部品をほどいてください。

2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品が揃っているか確認してください。

3. 組 立

各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の符号を参照にしてください。

(1) トップマストをギャボックスに、ローリンクプレートを取り付けてください。

トップマスト、ローリンクプレートを仮止めし、使用するオートヒッチを組み立てた後、仮止め部を締め付けてください。

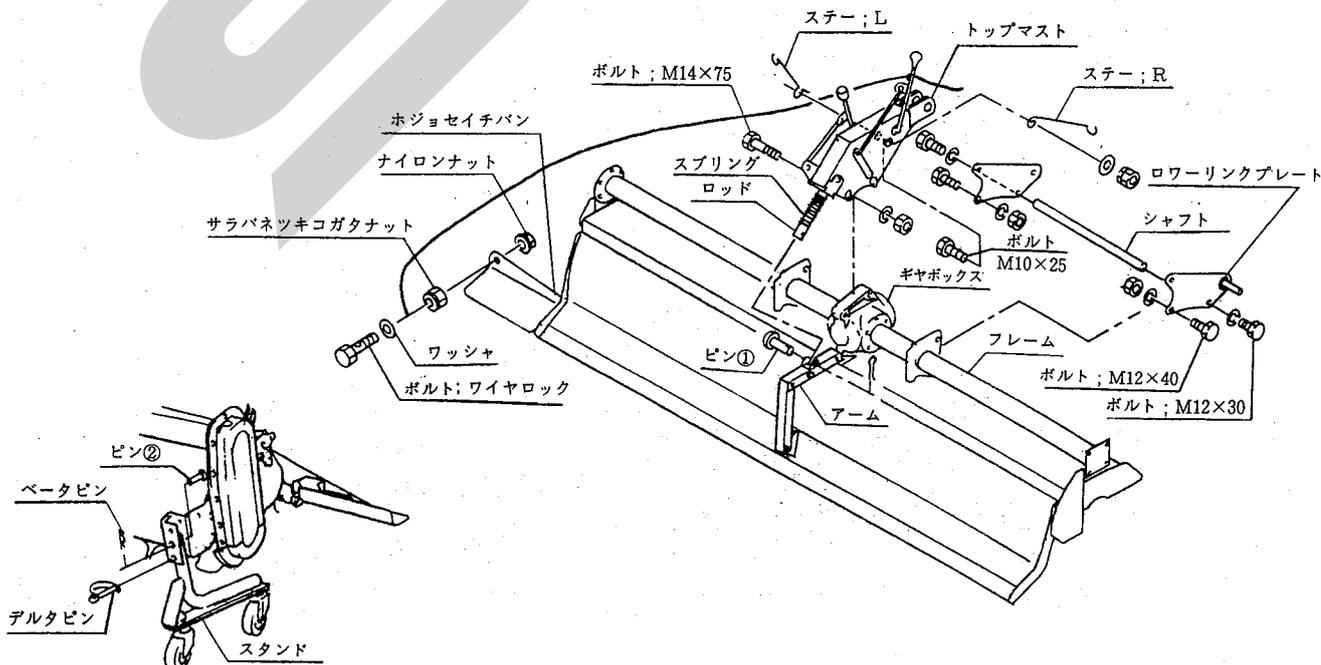
(2) ロッドにスプリングを入れ、アームにピン①にて取り付けてください。

(3) 土寄せレバーのニギリを取はずし、ワイヤの輪の部分に土寄せレバーを通し、再度ニギリを取りつけてください。

ホジョセイチバンを開いた状態でボルト、ワイヤロックの穴にワイヤを通し、長さを調整し、サラバネツキコガタナットにて固定してください。さらにナイロンナットにてホジョセイチバンに取り付けてください。

(ワイヤが長い場合はニップ等で余分なワイヤを切断してください。)

(4) ロータカバースタンド取付部の真ん中と下の穴にスタンドを取り付けます。真ん中の穴は、ピン②とベータピン、下の穴はデルタピンにて取り付けてください。



4 オプション

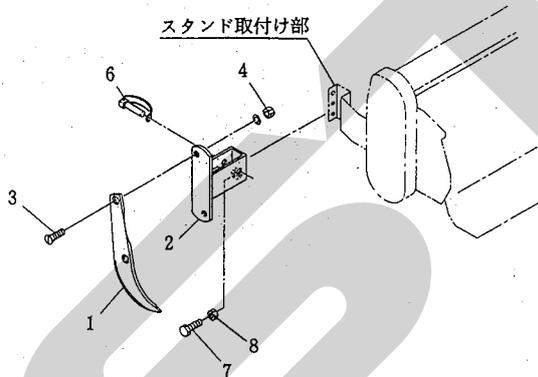
あぜ際までよりきれいに代かきするためのアゼギワツメを用意しています。

1. アゼギワツメ取付要領

部品表を参考に、下記の要領で取り付けてください。(文章中の○囲み数字は部品表の見出し番号を表します。)

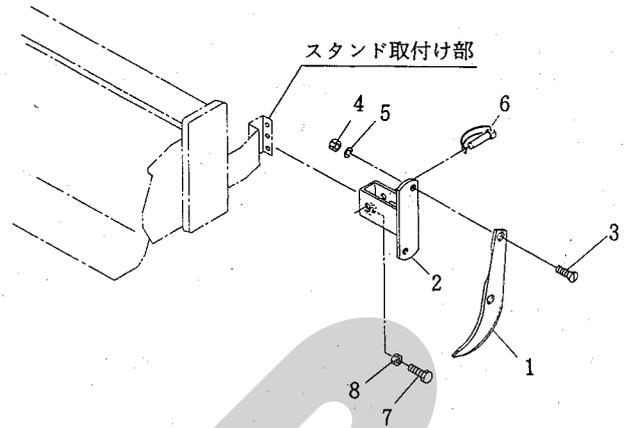
- (1) ①アゼギワツメを③スリワリサラボルト、④ナット・⑤ハネザガネで②ブラケットに取り付けてください。この時、②ブラケットのナットが下側になるよう取り付けてください。
- (2) ⑦ボルト・⑧ナットを②ブラケットのナットに仮止めしてください。
- (3) ②ブラケットを⑥デルタピンで、スタンド取付部の下側の穴に取り付けてください。
- (4) (2)で仮止めした⑦ボルト・⑧ナットを締め込み、スタンド取付部と②ブラケットのガタをとってください。
- (5) スタントを使用する場合は、⑥デルタピンを取りはずし、②ブラケットをスタンド取付部の上側の穴に取り付けてください。

2. アゼギワツメAS ; L 部品表



見出番号	部品番号	部品名称	個数
ASY	1124280000	アゼギワツメAS;L ①~⑧付	1組
1	1124300006	アゼギワツメ ; L	1
2	112432000D	ブラケット ; L	1
3	BM14035	スリワリサラボルト M14×35	2
4	NZ14	ナット 8 2シュ M14	2
5	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	2
6	114931000M	デルタピン ; 13	1
7	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	1
8	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	1

3. アゼギワツメAS ; R 部品表



見出番号	部品番号	部品名称	個数
ASY	1124290000	アゼギワツメAS;R ①~⑧付	1組
1	1124310006	アゼギワツメ ; R	1
2	112433000D	ブラケット ; R	1
3	BM14035	スリワリサラボルト M14×35	2
4	NZ14	ナット 8 2シュ M14	2
5	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	2
6	114931000M	デルタピン ; 13	1
7	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	1
8	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	1

5 トラクタへの装着

▲ 警告

- 作業機を装着するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に入っていると挟まれてケガをすることがあります。トラクタと作業機の間に入らないでください。

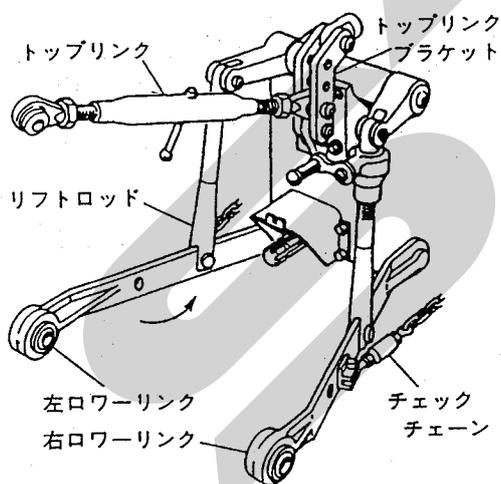
▲ 注意

- 作業機をトラクタに装着する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

1. 装着前の準備

本作業機の装着方法は、標準3点リンク式です。作業機の下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置をローワーリンクの前側の穴に移してください。

特殊3点リンク式のロータリーを使用している場合には、トップリンクの連結部を外し、標準3点リンク用の長いトップリンクを使用してください。



スタンド前側のキャストにはブレーキが付いていますので、ハロー単体での移動以外は、ブレーキを掛けてください。

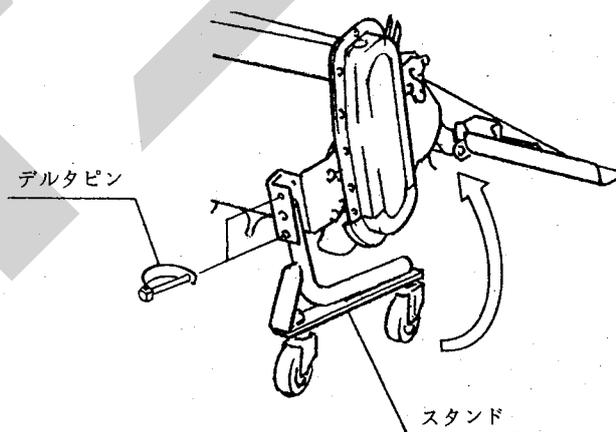
2. 標準タイプの装着

トラクタ3点リンクへハローの3点を連結します。

- (1) カテゴリー0のトラクタはハローのローワーリンクピンを内向きに、カテゴリーIのトラクタは、ローワーリンクピンを外向きに取り付

けてください。

- (2) トラクタのエンジンを始動して、ハローの左右のローワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。
エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (3) 左のローワーリンクを連結し、抜け止めにトラクタに付いているリンチピンをローワーリンクピンに差してください。
次に右のローワーリンクも同じ順序で行ってください。
- (4) トップリンクを連結し、トラクタに付いているピンで固定し抜け止めにリンチピン等を差してください。
- (5) 左右のローワーリンクが同じ高さになるように、トラクタ右側のアジャストスクリューで調整してください。
- (6) P I C軸芯がトラクタ中心におおよそ一致するよう、チェックチェーンでセットし、ハローの横振れをなくしてください。
- (7) ロータカバースタンド取付部の下のデルタピンを取はずし、スタンドを上へ上げ、上の穴でスタンドを固定してください。



- (8) 作業状態でハローが垂直になるように、トップリンクの長さを調整してください。

取扱い上の注意

スイッチ一つで勢いよく最上部まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあります。手動で干渉の無いことを確認し、十分余裕をとって上がり規制を行ってください。

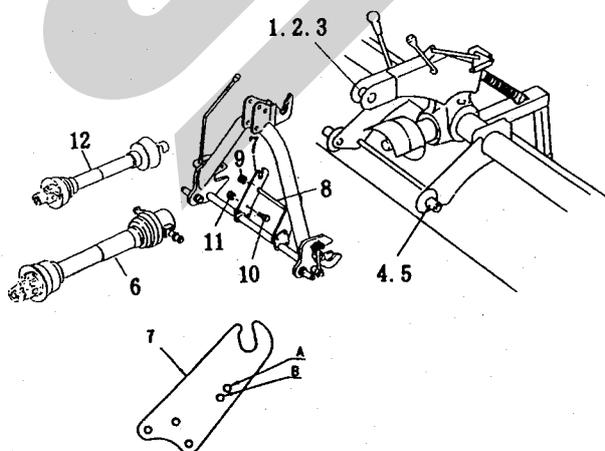
3. 0S、3S、4Sタイプの装着

▲ 注意

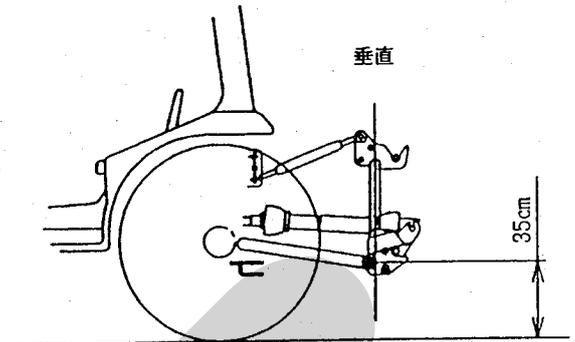
トラクタのエンジンをかけたまま、または駐車ブレーキをかけずにオートヒッチフレームをトラクタに装着すると第三者の不注意により不意にトラクタが動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて行ってください。

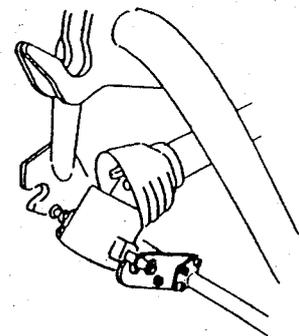
- (1) 本作業機のオートヒッチは日農工標準オートヒッチ0・I兼用区分Bを採用しています。
- (2) 図を参考にして、符号1～5をハロー本体に組み付けてください。
- (3) 0Sの場合は、お手持ちのオートヒッチフレームをトラクタに装着します。
 - ・3Sの場合は購入されたオートヒッチをトラクタに装着します。
 - ・4Sの場合はオートヒッチフレームに図の符号7～11を組み付けてからトラクタに装着します。(符号8は、符号7のAの穴に取付けてください。)
 - ・カテゴリ0のトラクタは、オートヒッチフレームのローリンクピンを内向きに、カテゴリIのトラクタは外向きに取り付けてください。(オートヒッチフレーム装着後、必ずリンチピンで抜け止めを行ってください。)
 - ・ハローのトラクタへの装着をスムーズに行うため、チェックチェーンは若干ゆるめに張っておきます。尚、作業時はチェックチェーンを張ってください。



- (4) ローリンクの地上高が35cm位で、オートヒッチフレームの姿勢が垂直になるようにトップリンクの長さを調整してください。



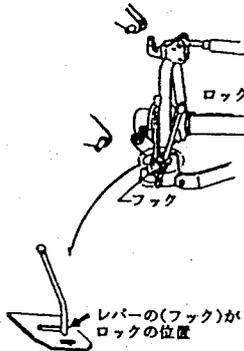
- (5) パワージョイントの組み付け
 - ・3Sタイプの場合、または0Sタイプでお手持ちのオートヒッチフレームが3Sタイプの場合、オートヒッチフレームにハローを装着した後、符号12のパワージョイントを組み付けます。(パワージョイントの装着を参照ください)
 - ・4Sタイプの場合、オートヒッチを下限まで下げ、トラクタPTO軸に符号6のパワージョイントのピン付ヨークを、もう一方はステッカーを上にして、ユニバーサル部よりジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートの長穴にセットします。
 - ・ジョイントカバーが回転しないよう、カバーのチェーンを回転しない所に連結してください。(パワージョイントの装置を参照ください)



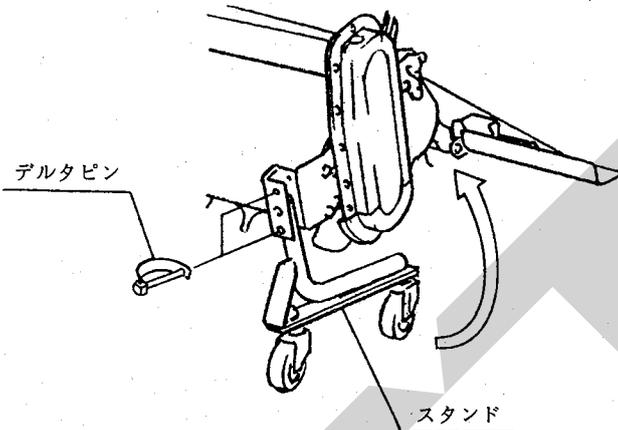
- (6) オートヒッチフレーム上部ガイド(フック部)がトップリンク部をすくい上げることができる位置までトラクタをハロー中心に向けて、ゆっくりバックさせます。
次に油圧を上げて、オートヒッチにハローを装着させます。

- (7) ハロー装着後、オートヒッチのレバーがロックの位置にあり、フックが掛かっていることを確認してください。

4Sタイプまたは、0Sタイプでお手持ちのオートヒッチフレームが4Sタイプの場合はさらにパワージョイントが接続されていることを確認してください。



- (8) ロータカバースタンド取付部の下のデルタピンを取りはずし、スタンドを上へ上げ、上の穴でスタンドを固定してください。



取扱い上の注意

スイッチ一つで勢いよく最上部まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあります。手動で干渉の無いことを確認し、十分余裕をとって上がり規制を行ってください。

4. 純正ロータリ用オートヒッチの装着

純正ロータリ用オートヒッチでトラクタに装着する時は、純正ロータリの取扱説明書に基づき行ってください。

取扱い上の注意

スイッチ一つで勢いよく最上部まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあります。手動で干渉の無いことを確認し、十分余裕をとって上がり規制を行ってください。

6 パワージョイントの装着

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーチェーンを取り付けずに使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。

最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。適正な重なり量で使用してください。

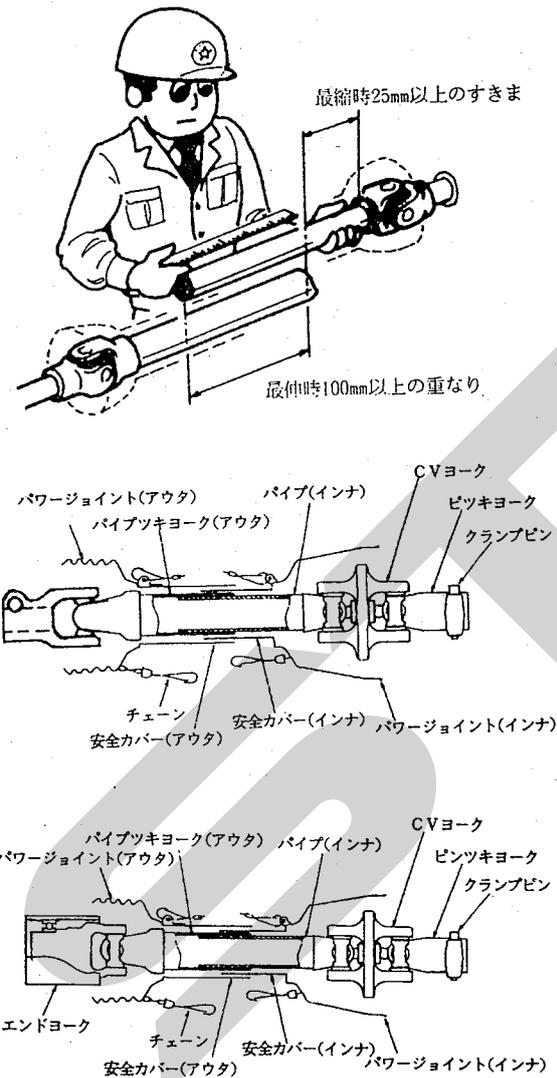
1. 長さの確認方法

- (1) パワージョイント単体で、最縮時の安全カバー（アウト）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
- (2) パワージョイント（アウト）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
- (3) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸が最も接近する位置で、昇降を停止してください。
- (4) ピン付ヨークのクランプピンを押してPTO軸と連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

標準、3Sタイプの場合は、ピン付ヨークのクランプピンを押してPIC軸と直結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

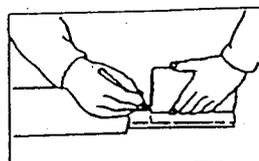
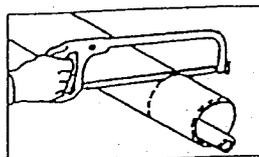
4Sタイプの場合は、エンドヨークのピン部をオートヒッチのサポート溝に入れてください。

- (5) 安全カバー同士を重ね合わせた時、安全カバー（アウト）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に従って切断してください。
- (6) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とP I C軸が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (7) 安全カバー同士を重ね合わせた時、パイプ（アウト）とパイプ（インナ）の重なり量が100mm以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

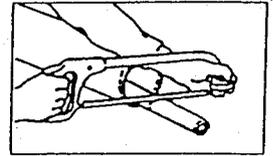


2. 切断方法

- (1) 安全カバーのアウト・インナ両方を長い分だけ切り取ります。
- (2) 切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



- (3) パイプのアウトとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。

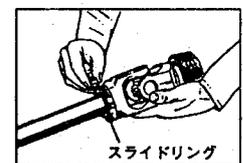
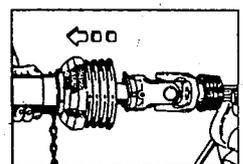
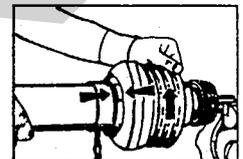
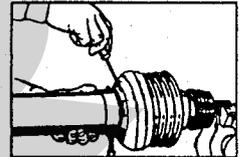


- 切断する時は、パイプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。
- (4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げしてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウトとインナを組み合わせます。

3. 安全カバーの脱着方法

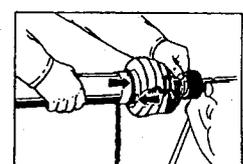
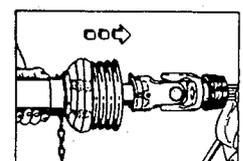
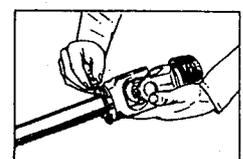
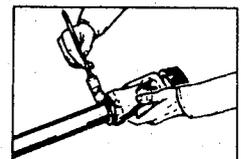
(1) 安全カバーの分解手順

- ① 固定ネジを取り外してください。
- ② 安全カバーを取はずし位置へ回してください。
- ③ 安全カバーを引き抜いてください。
- ④ スライドリングを取り出してください。



(2) 安全カバーの組立手順

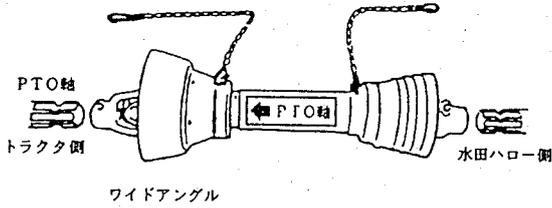
- ① ヨークのスライドリング溝とパイプ（インナ）にグリースを塗ってください。
- ② スライドリングのつばをパイプ側に向け、切口を開いて溝にはめてください。
- ③ その上に安全カバーをはめてください。
- ④ カバーをしっかりと止まるまで回してください。
- ⑤ 固定ネジを締め付けてください。



4. パワージョイントの連結

(1) 広角ジョイントの取り付け

広角ジョイントの取り付けは、図に示すように、ワイドアングルをトラクタ側に取り付けてください。



取扱い上の注意

取り付け方向を間違えますと、ジョイントの故障原因になります。

(2) 作業機への連結

① 標準タイプ、3Sタイプの場合

ピン付ヨークのクランプピンを押して、P I C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

② 4Sタイプの場合

トラクタに装着したオートヒッチフレームで作業機を装着すると自動的に連結されます。

③ 0Sタイプの場合

お手持ちのオートヒッチフレームが4Sタイプの場合には「②4Sタイプの場合」を参照してください。

3Sタイプの場合には、「①3Sタイプの場合」を参照してください。

(3) トラクタへの連結

ピン付ヨークのクランプピンを押して、P T O軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

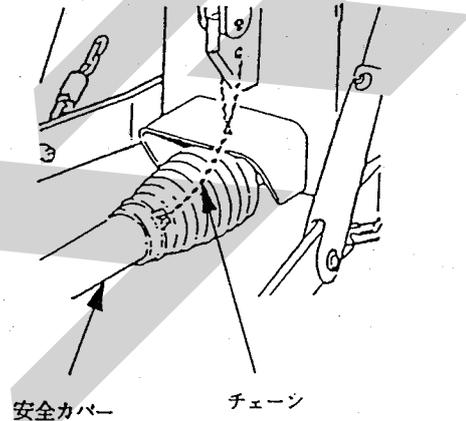
▲ 注意

- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

(4) 安全カバーチェーンの固定

安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。

チェーンは3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

(1) 3点リンクの連結部点検

- ① ローリンクピン・トップリンクピンのリンチピン・ベータピンは、確実に挿入されているか。
- ② チェックチェーンは張られているか。
- ③ 不具合が見つかった時は、「1-5 トラクタへの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。

(2) パワージョイントの点検

- ① ピン付ヨークの抜け止めのクランプピンが軸の溝に納まっているか。
- ② ジョイントカバーのチェーンの取付に余分なたるみはないか。また、適度な余裕があるか。
- ③ ジョイントカバーに損傷はないか。損傷している時は、速やかに交換してください。
- ④ 不具合が見つかった時は、「1-6-4 パワージョイントの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

3. ハローの点検

点検整備一覧表に基づき始業点検を行ってください。

2 エンジン始動での点検

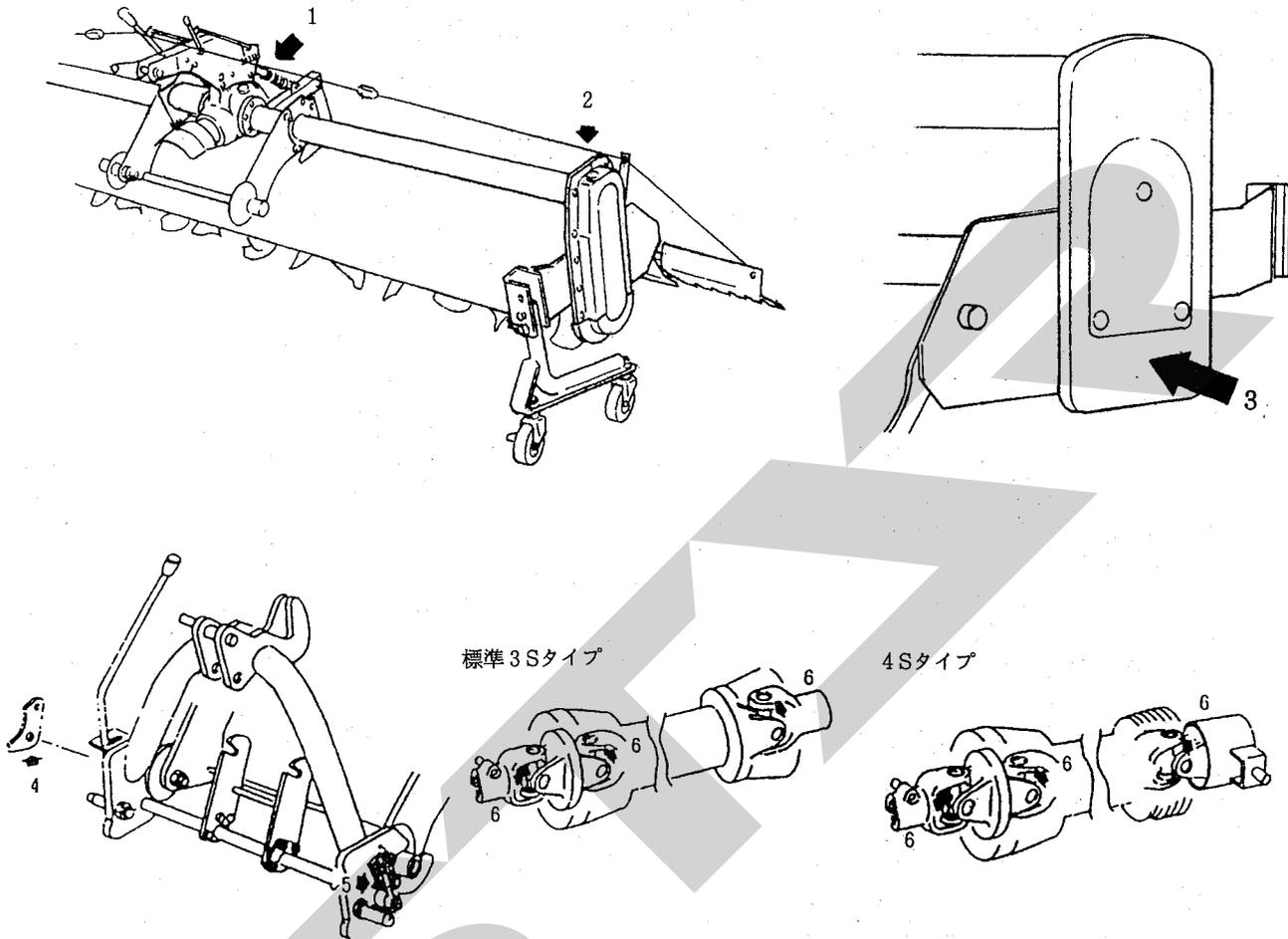
1. トラクタ油圧系統に異常はないか。

- (1) トラクタ油圧を操作し、3点リンクを上昇し、作業機を持ち上げた状態で、降下がないか。
- (2) 上記以外に異常が見つかった時は、「6-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。
- (3) トラクタ油圧系統などに異常がある時は、トラクタ販売店にご相談ください。

3 給油箇所一覧表

○給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。

○グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	交換時間		量	備考
				1回目	2回目以降		
1	ギヤボックス	1	ギヤオイル	20時間目	作業シーズン毎	0.5ℓ	交換
2	チェーンケース	1	〃	〃	〃	0.4ℓ	〃
3	ロータ軸々受 (従動側)	1	グリース	〃	〃	充填	給脂
4	オートヒッチフレーム アーム回転中心	1	オイル	使用毎		適量	注油
5	オートヒッチフレーム フック; R、L	1	グリース	〃		〃	給脂
6	パワージョイント	標準、3Sタイプ 3 4Sタイプ 3	〃	〃		〃	〃

3 作業の仕方

安全を確認して、慎重に作業してください。

1 本製品の使用目的

稲の植床を作る代かき作業に使用します。
田植を容易にし、田植後の生育を促進する土の条件を作ります。
他の用途には使用しないでください。

取扱い上の注意

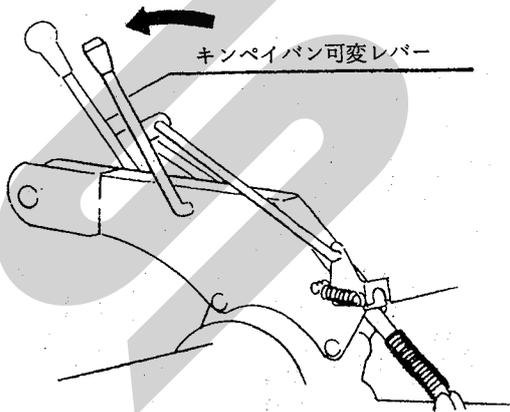
本作業機は水田での代かき機ですので畑地等での使用はやめてください。作業機を破損させる原因になります。

2 各部の調整

1. キンペイバンの可変装置

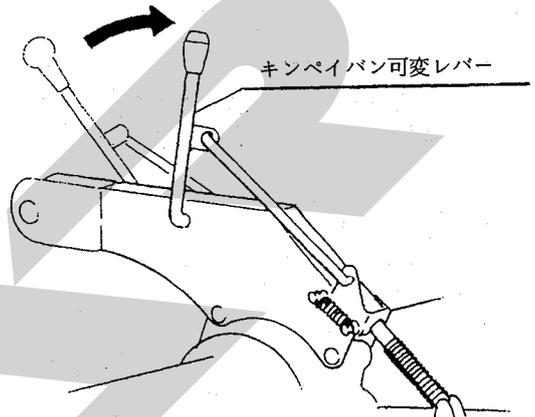
(1) 標準位置

レバーを前側に倒してください。キンペイバンの重量を軽減し、低速から高速作業まで対応できます。



(2) 押え位置

レバーを後側に倒してください。スプリングを働かせ、キンペイバンを押さえます。主に粘土地や土塊が大きい場合に使用します。高速で作業すると、ハローの両脇から水や泥が出ます。

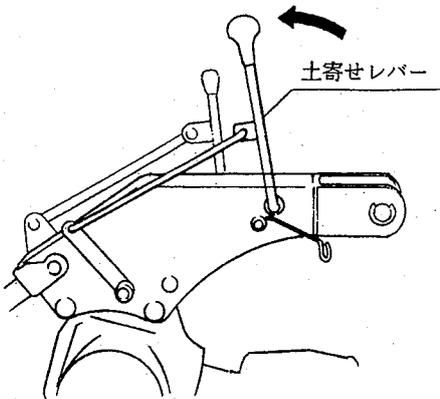


3 作業時の操作

1. 土寄せ装置の切換

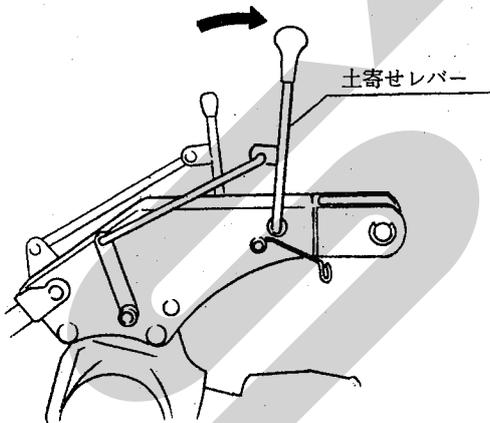
(1) 土寄せ作業

トラクタの油圧操作レバーを操作し、作業機を持ち上げ土寄せレバーを後側に倒します。キンペイバンが固定され、土寄せ作業ができます。



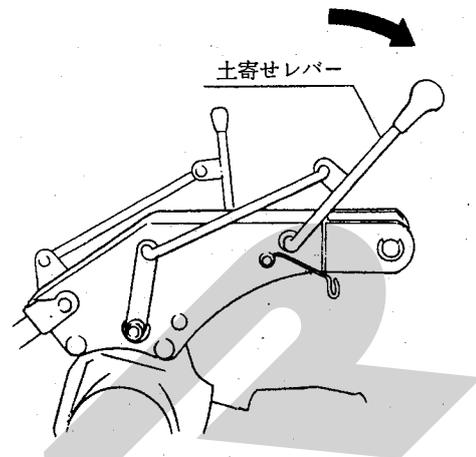
(2) 土寄せ解除

トラクタの油圧操作レバーを操作し、作業機を持ち上げ、土寄せレバーを軽く前側に倒します。



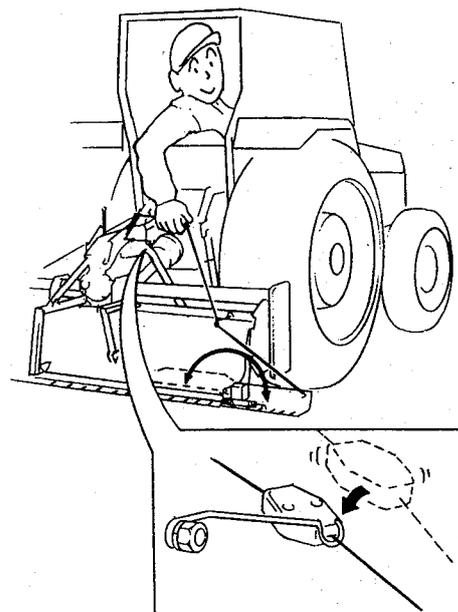
(3) 代かき作業

土寄せ解除の状態で作業機を下げ、地面に着けると、自動的に土寄せレバーが戻り、代かき作業の姿勢になります。キンペイバンが上下に動くようになり、代かき作業ができます。



2. ホジョセイチバンの折りたたみ

- (1) 土寄せレバーを代かき作業の位置にしてください。
- (2) トラクタの座上からワイヤを操作（ワイヤのニギリを強く引き、すぐにゆるめる）し、ホジョセイチバンを開閉してください。
- (3) ホジョセイチバンを折りたたんだ時（閉）は、ニギリをステア；L（R）にかけ、ワイヤのたるみをとってください。
- (4) 本作業機をトラクタにマッチングした状態で運搬する時は、ホジョセイチバンを折りたたんでください。



4 作業要領

▲ 警告

- 運転中又は回転中、ロータに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業中、周囲に人を近づけないでください。
- 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。指定回転速度を守ってください。
- トラクタから離れる時、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により降下し、ケガをする事があります。下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

▲ 注意

- 運転中又は回転中、P I C軸に接触すると巻き込まれケガをする事があります。手を入れないでください。
- 作業機の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

取扱い上の注意

トラクタに本作業機を装着して移動走行するときは、ホジョセイチバンを折りたたんでください。折りたたまずに行くと障害物等への接触により作業機を破損させることがあります。

1. 作業速度

作業速度は2～5 km/hが適当ですが、車速が早いと碎土も荒く、ワラ・草の埋込みも悪くなる傾向になりますので、ほ場条件に応じた車速を選んでください。

2. PTO回転速度

本作業機の適正PTO回転速度は、540～600 rpmです。

取扱い上の注意

同一ほ場内では、できるだけ同じ作業速度・同じPTO回転速度を保つことが精度の高い仕上がりになります。

石の多いほ場では、極力作業速度・PTO回転速度を遅くして使用してください。

3. 逆転PTOについて

アゼ際の土寄せ等の作業には使用できるように駆動部は、対応していますが、代かき爪の形状及び取付け部が逆転対応していませんので、長時間の作業や乾田では使用しないでください。

4. 作業方法

(1) 土寄せ作業

ほ場に高低差がある場合は、代かき作業を行う前に、あらかじめ高いところの土を低いところへ引き寄せる土寄せ作業を行います。

土寄せ作業の要領

作業を開始する前に、水面からの土の露出状態をよく見て、どのあたりの土をどこへ引き寄せるかを、あらかじめ決めておきます。

土寄せは……

- PTOをとめてロータ軸を回転させないでキンペイバンをロックして行います。
- 土を少しずつ何回にも分けて引き寄せるようにします。
- 一度に多量の土を引き寄せると、土が移動し過ぎて、逆に高低差をつくる結果となります。

取扱い上の注意

未耕地での土寄せ作業、バックでの土寄せ作業は、やめてください。作業機を破損させる原因になります。

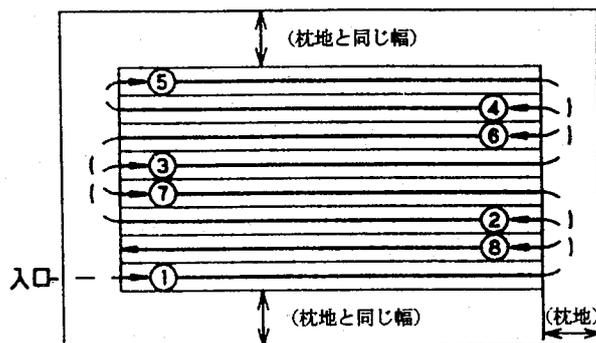
(2) 代かき作業

代かきの作業行程は、土の移動を最小限にするため急旋回を避け、1行程おきに行うのが一般的です。

旋回用の枕地として約2行程分をとり、側方にも同じ幅を残してほ場の長辺をまっすぐ作業します。(①)

作業幅の1行程分を残して旋回半径を大きくし、往復作業を行います(②③④)

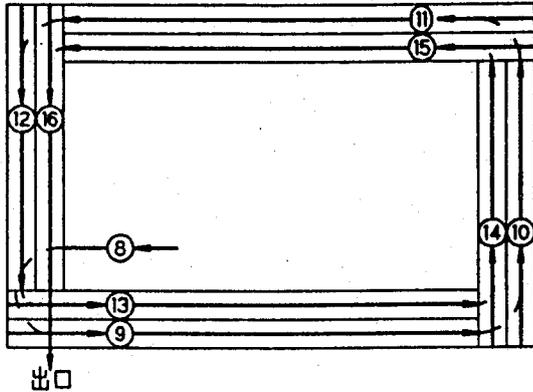
側方に枕地と同じ幅を残して折り返し(⑤)、残った⑥⑦⑧を作業します。



⑨⑩⑪⑫はアゼの際を回り、作業します。

残耕を少なくするため、左回りでチェーンケースを内側にして、アゼ側のホジョセイチバンをたたみ、作業します。

⑬⑭⑮⑯はアゼ側のホジョセイチバンをもとに戻し、間に残った所を回りできあがりです。



5. 代かき爪の配列・取り付け方法

(1) トラクタの車輪跡を消すため、曲がり爪を逆向きに装備していますが、トラクタのトレッド（後輪の跡）と曲がり爪の配列が合わない場合は、曲がり爪をトラクタのトレッドに合わせて付け直してください。

(2) 代かき爪の取り付け方法

ホルダーの片側が六角穴になっていますので、その六角穴側からボルトを入れて代かき爪を取り付けてください。

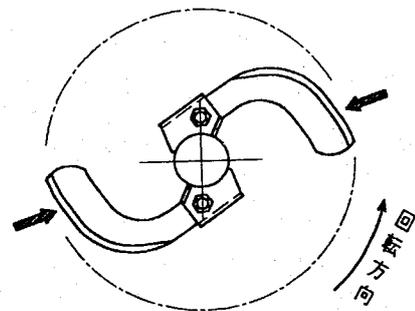
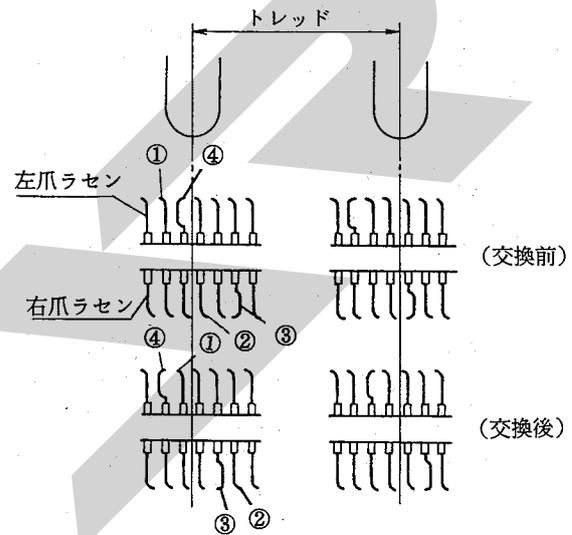
爪取り付けボルトの締付けは、代かき爪を➡方向に押しつけて、行ってください。

(3) 代かき爪の配列

爪は、チェーンケース側から70度ピッチの2本の左巻ラセン形（右爪ラセン、左爪ラセン）の配列になっています。

爪を交換する時は、爪を一度に全部外すと、配列間違いの原因になりますので1本ずつ交換するようにしてください。

①	普通爪 (L)
②	普通爪 (R)
③	特殊爪 (L)
④	特殊爪 (R)



4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ

▲ 注意

- 作業機の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

1. ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか、また、破損部品がないか確認してください。異常があれば、ボルトの増締、部品の交換をしてください。

2 トラクタからの切り離し

▲ 警告

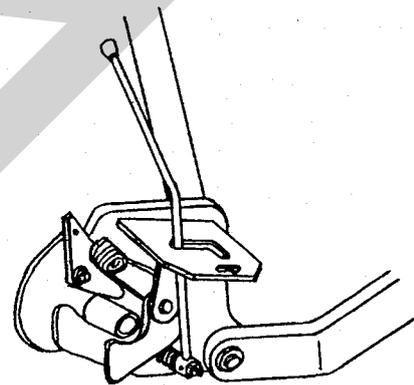
- 作業機を切り離すためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間如果有人いると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間を近づけないでください。

▲ 注意

- 作業機をトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- (1) ハローをトラクタ又はオートヒッチフレームから外す時は、ハロー本体のスタンドを使用し、デルタピンにてセットしてください。次にスタンドが地面に接するまでトラクタの油圧を降ろし、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。

- (2) 標準タイプはトラクタPTO軸からパワージョイントを外します。次にトップリンクを外し、さらに左右のローリンクを外します。
- 3SタイプまたはOSで、お手持ちのオートヒッチフレームが3Sタイプの場合は、トラクタPTO軸からパワージョイントを外します。
- (3) OS、3S、4Sタイプは、オートヒッチのレバーを解除の位置にし、フックを下げます。ハローのスタンドが地面につくまで、トラクタの油圧を静かに下げ、オートヒッチフレーム下部のフックがローリンクピンガイドから外れていくのを確認しながら、トラクタをゆっくり前進させて外します。



3 長期格納する時

1. 機体各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PTO軸、PIC軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装損傷部は、補修塗装または油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5. 格納は風通しのよい屋内に保管してください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

1 点検整備一覧表

時 間	チェック項目	処 置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使用毎 (始業・終業点検)	①機械の清掃 ②各部のボルトナットの緩み ・代かき爪の取付ボルト等 ③各部の油脂類 ・ギヤケース ・チェーンケース ・ジョイント等 ④部品脱落・破損部 ・代かき爪 ・チェーンケースガード等	増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油・給脂 補充・交換
シーズン終了後	①各部の破損、摩耗 ②各部の清掃 ③各部の給油・給脂 ④塗装損傷部 ⑤PICシャフト等無塗装部	早めの部品交換 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油・給脂 塗装または油塗布 グリースまたは油塗布

6 不調時の対応

1 不調処置一覧表

▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

箇所	症状	原因	処置
ギヤボックス	異常発熱する	ギヤオイルが不足	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
	異常音の発生	ギヤの損傷	ギヤの交換
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
	オイル洩れ	P I Cシャフト部のオイルシールの損傷	オイルシールの交換
		キャップ部のOリングの損傷	Oリングの交換
		液状パッキンの劣化	液状パッキン塗直し
	ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め	
チェーンケース	異常発熱する	オイルが不足	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
	異常音の発生	ローラチェーンの損傷	ローラチェーンの交換
		イタバネの損傷	イタバネの交換
	オイル洩れ	チェーンケースパッキンの損傷劣化	チェーンケースパッキンの交換
ボルトのゆるみ		ボルトの増し締め	
ロータ	異常音の発生	代かき爪取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
	振動の発生	ロータの曲がり	ロータ交換
	残耕の発生	代かき爪の摩耗・脱落	代かき爪交換
	土寄の発生	代かき爪の配列不良	「4-5 代かき爪の配列・取り付け方法」に基づき、配列チェック
ジョイント	異常音の発生	グリース切れ	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給脂
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適格	機体の前後姿勢の修正
		ハローの上げすぎ	リフト高さの規制

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式（型式）
3. 製造番号
4. 故障内容（できるだけ詳しく）

7 部 品 表

部品のご注文について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ① 製品名
- ② 部品供給型式（型式）
- ③ 部品名称（部品表を参照してください。）
- ④ 部品番号（ " ）
- ⑤ 個 数（ " ）

※部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 個数欄の☐・☑は、以下のことを表しております。

☐…シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品。

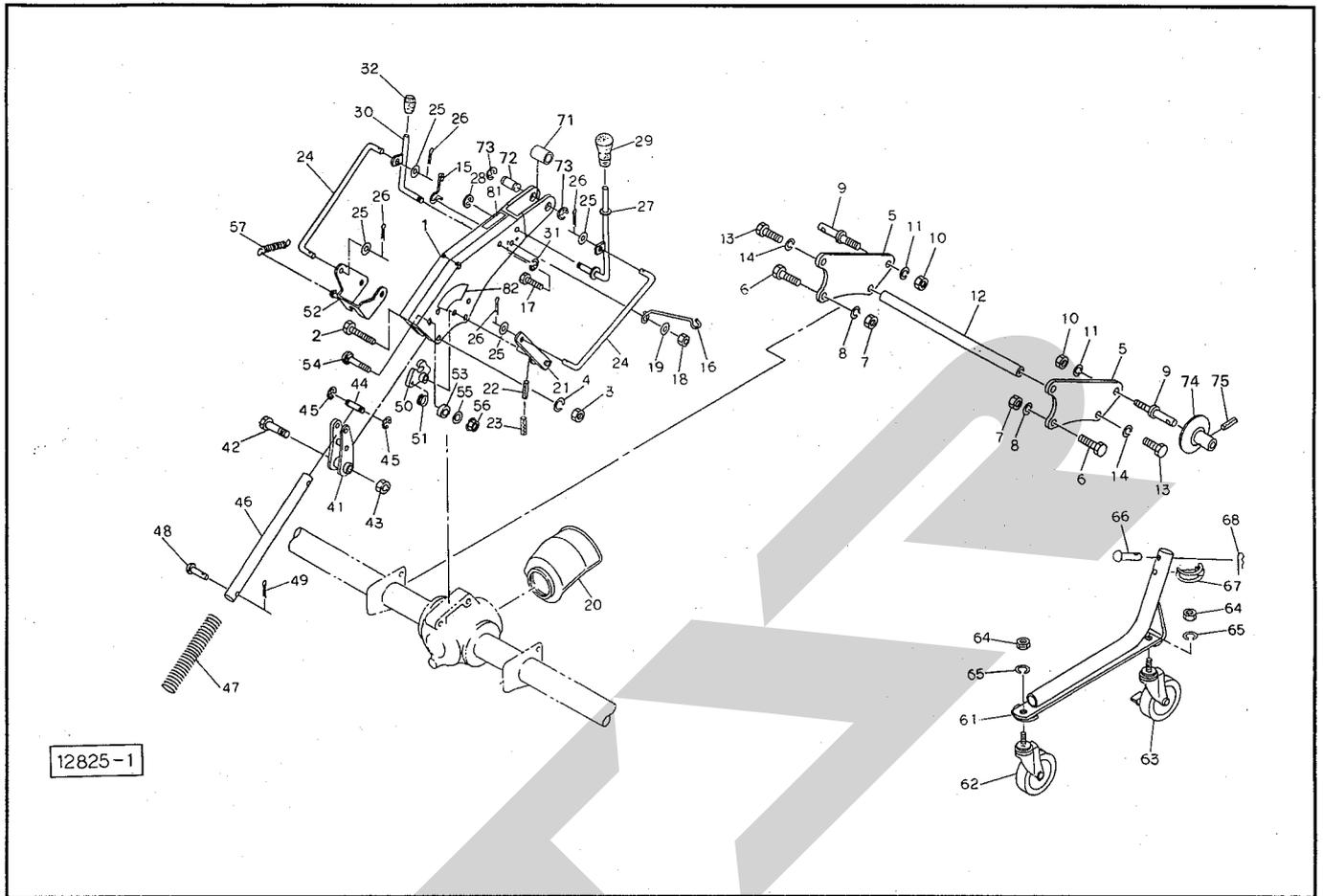
☑…アッセイ品に含まれる部品で、単品では供給しない部品。

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

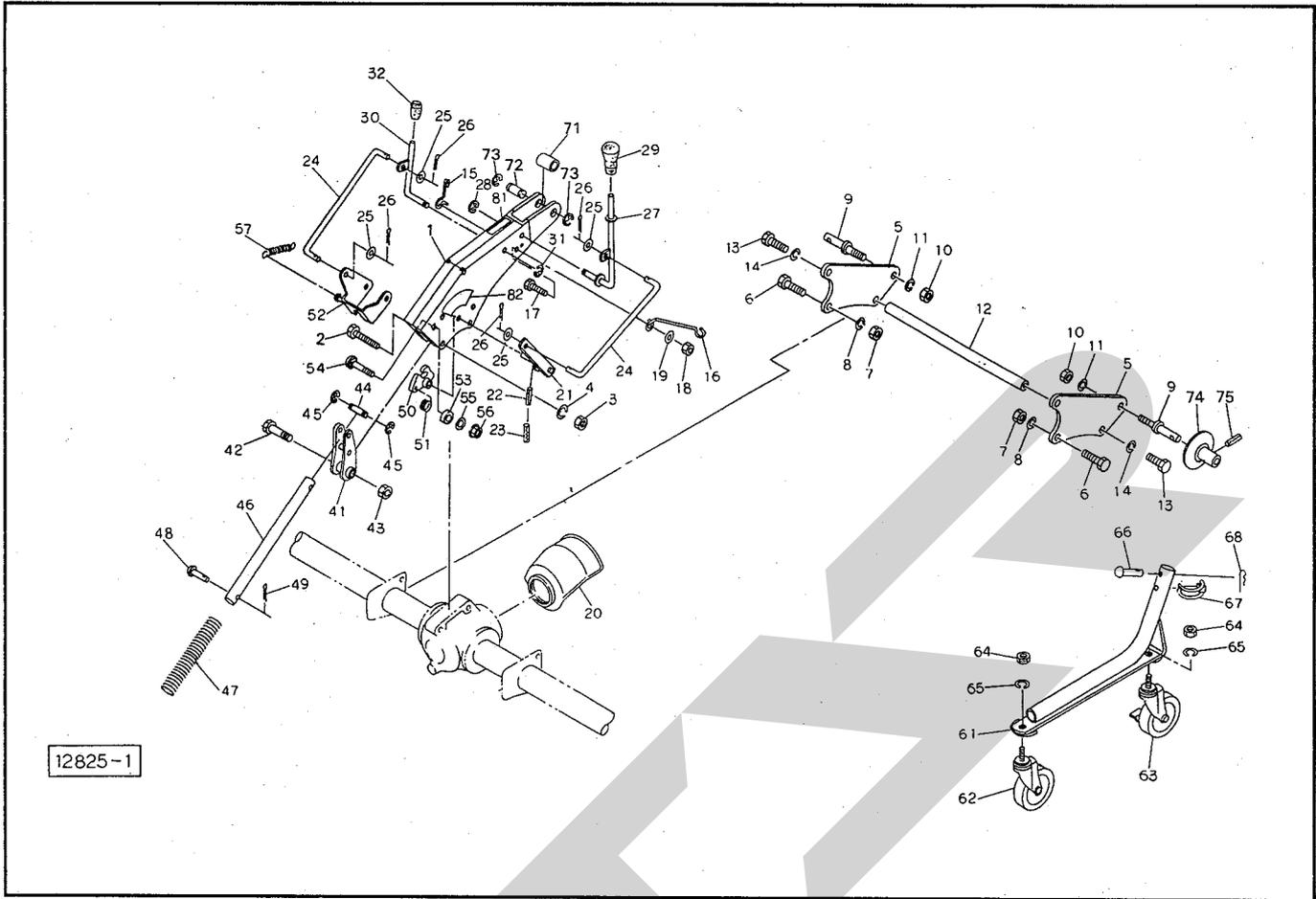
補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。

MPE1810・2010・2210 水田ハロー 3Pフレーム・レバー・スタンド



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	112243000D	トップマスト CP ; S	1	
2	BZ14075	ボルト 8.8 M14×75	2	
3	NZ14	ナット 8 2シュ M14	2	
4	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	2	
5	099841100D	ローリンクプレート	2	
6	BZ12040	ボルト 8.8 M12×40	4	
7	NZ12	ナット 8 2シュ M12	4	
8	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	4	
9	000006200M	ローリンクピン ; O・I	2	
10	NAA22150	ナット 4 1シュ M22×1.50	2	
11	WS22	バネザガネ 2ゴウ M22	2	
12	099842000M	シャフト	1	
13	BZ12030	ボルト 8.8 M12×30	2	
14	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	2	
15	112239100M	ステー ; L	1	
16	112240100M	ステー ; R	1	
17	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	
18	NSP10	コガタスパックナット 4 M10	2	
19	WRA10	ヒラザガネ M10	2	
20	0998550000	PIC カバー	1	
21	112223000M	レバーCP	1	
22	PS050020W	スプリングピン ダブルヨウ 5×20	1	
23	PS030020W	スプリングピン ダブルヨウ 3×20	1	
24	112228100M	ロッド	2	
25	WRA08	ヒラザガネ M8	4	

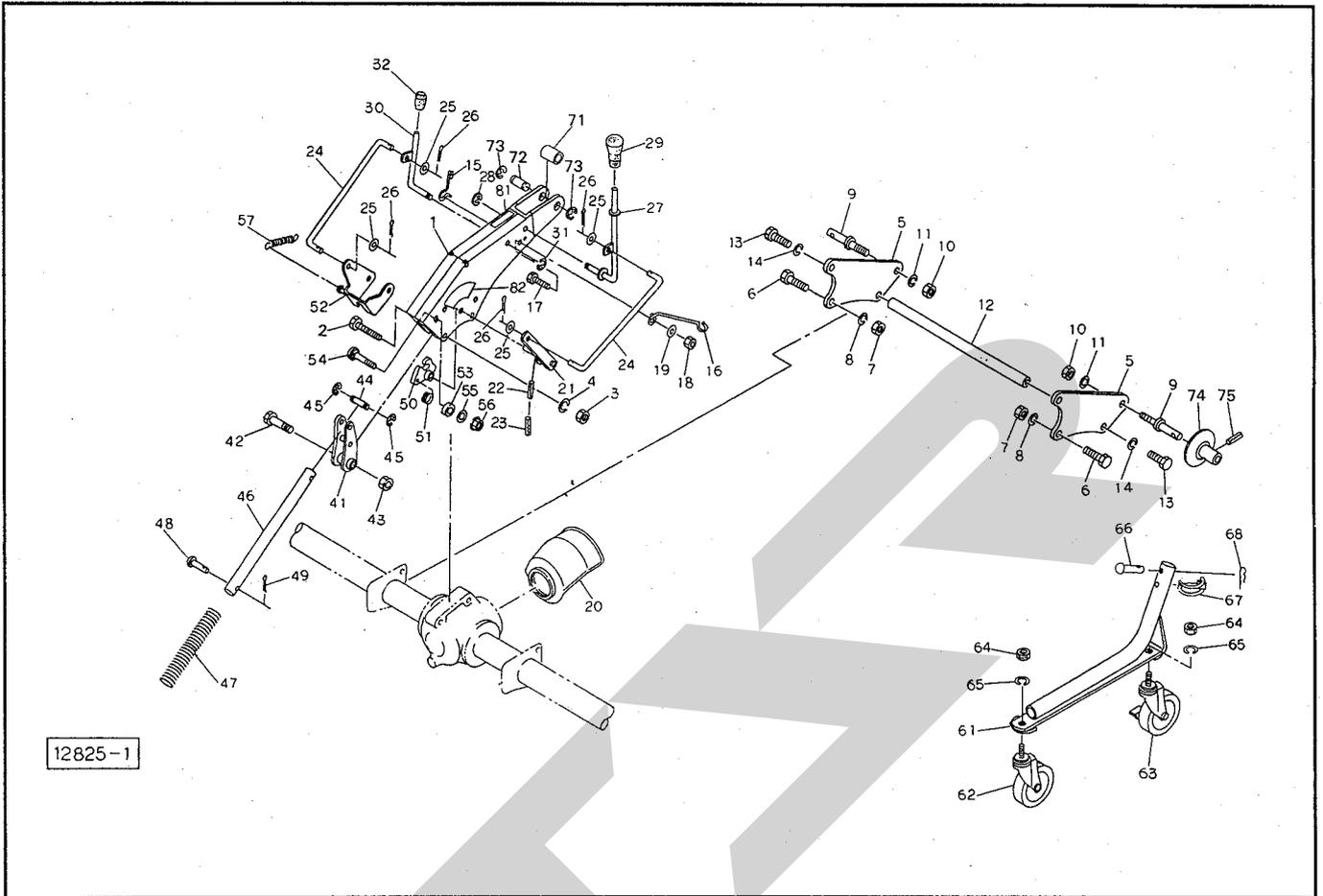
MPE1810・2010・2210 水田ハロー
3Pフレーム・レバー・スタンド



12825-1

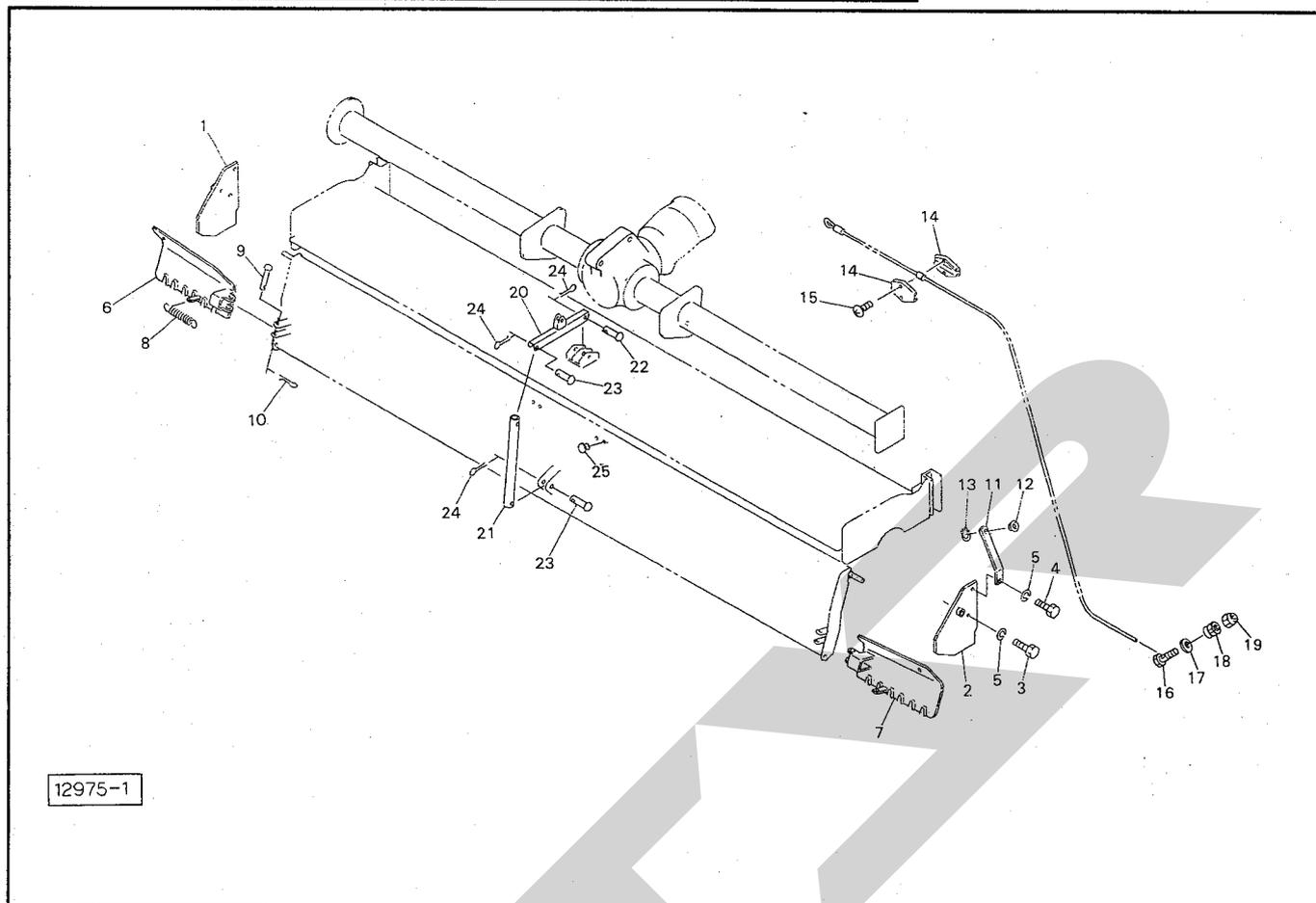
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	PC032016	ワリピン 3.2×16	4	
27	112229000M	レバー ; 1	1	
28	DE008	Eガタトメワ 8	1	
29	0006810000	ニギリ ; 14	1	
30	112235000M	レバー ; 2	1	
31	DE008	Eガタトメワ 8	1	
32	000722	ニギリ ; 12	1	
41	114911000M	ブラケット CP	1	
42	BZ12070	ボルト 8.8 M12×70	1	
43	NNF12	フランジナイロンナット M12	1	
44	112165000M	ピン	1	
45	DE008	Eガタトメワ 8	2	
46	112166000M	ロッド	1	
47	068846000M	スプリング	1	
48	068705000M	ピン	1	
49	PC032020	ワリピン 3.2×20	1	
50	114914000M	レバーブラケット CP	1	
51	112225100M	スプリング	1	
52	112232000D	ストッパー CP	1	
53	115098000M	カラー ; 9.2×5.5	2	
54	055474000M	カクネボルト ; M8×20	2	
55	WRA08	ヒラザガネ M8	2	
56	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	2	
57	066783000M	スプリング	1	

MPE1810・2010・2210 水田ハロー 3Pフレーム・レバー・スタンド



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
61	114901000D	スタンドCP	2	
62	1125150000	キャスタ ; 100	2	
63	1125140000	キャスタ ; 100 (ストopp付)	2	
64	NZ20	ナット 8 2シュ M20	4	
65	WSA20	バネザガネ 3ゴウ M20	4	
66	068704100M	ピン	2	
67	114931000M	デルタピン ; 13	2	
68	000086200M	ベータピン ; 12×2	2	
71	089222000M	カラー	1	0S,3S,4S タイプ
72	107409000M	ピン	1	"
73	DE015	Eガタトメワ 15	2	"
74	089223200M	ガイドCP	2	"
75	PS080032	スプリングピン 8×32	2	"
81	1129990000	ラベル ; セイチバンキリカエ	1	
82	1130000000	ラベル ; ツチヨセキリカエ	1	

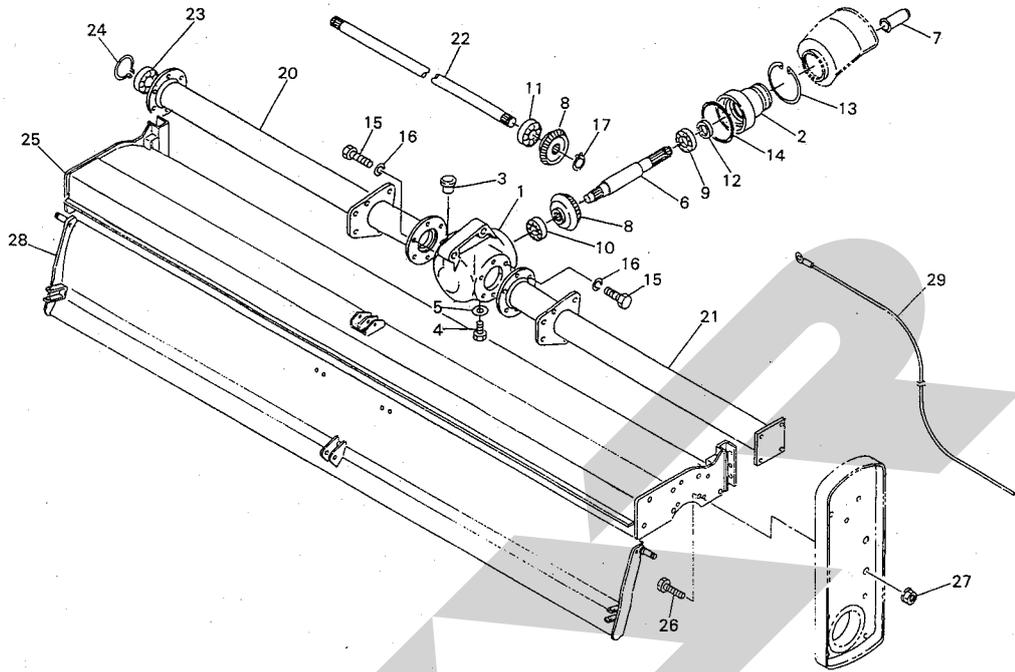
MPE1810・2010・2210 水田ハロー サイドパーツ・キンペイリンク



12975-1

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1148250003	サイドプレート CP ; L	1	
2	1148260003	サイドプレート CP ; R	1	
3	BSZ10020	コガタボルト 7 M10×20	2	
4	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	
5	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
6	1119081003	ホジョセイチバン CP ; L	1	
7	1119111003	ホジョセイチバン CP ; R	1	
8	068847100M	スプリング ; H メッキ	2	
9	107408000M	ピン ; 12×80 メッキ	2	
10	PC032020	ワリピン 3.2×20	2	
11	111355000M	ロープフック	2	
12	066672500M	ガイド	2	
13	DC020	Cガタトメワ ジク20	2	
14	0995051000	ニギリ	4	
15	CP04012	ナベコネジ M4×12	4	
16	115745000M	ボルト ; ワイヤロック	2	
17	WRA08	ヒラザガネ M8	2	
18	NSWC08	サラバネツキコガタナット M8	2	
19	NNF08	フランジナイロンナット M8	2	
20	114827000D	アーム CP	1	
21	114828000M	ロッド	1	
22	068704100M	ピン	1	
23	068705000M	ピン メッキ	2	
24	PC032020	ワリピン 3.2×20	3	
25	KMST007	アナジクヨウキャップ 7	4	

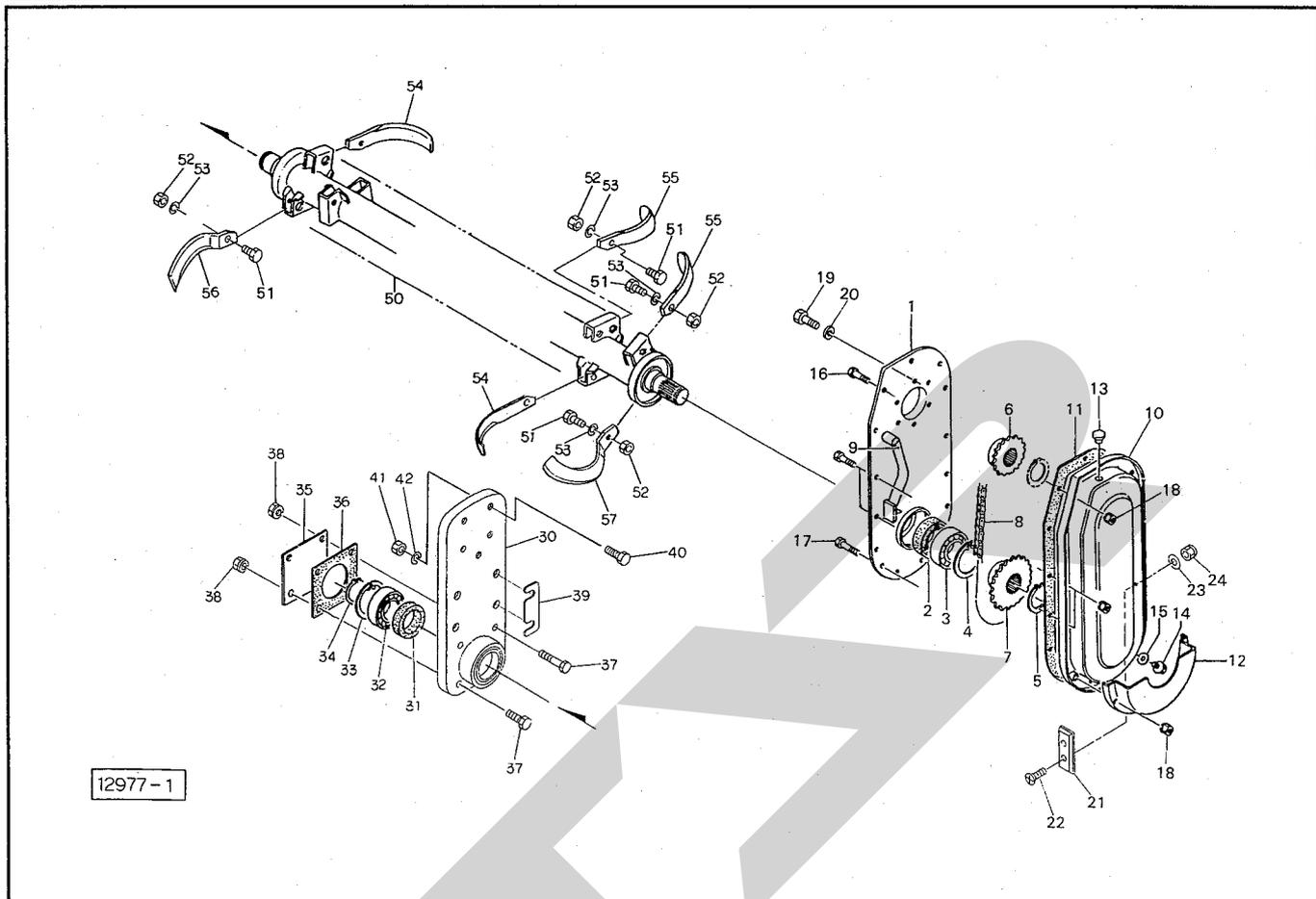
MPE1810・2010・2210 水田ハロー ギヤボックス・フレーム



12976

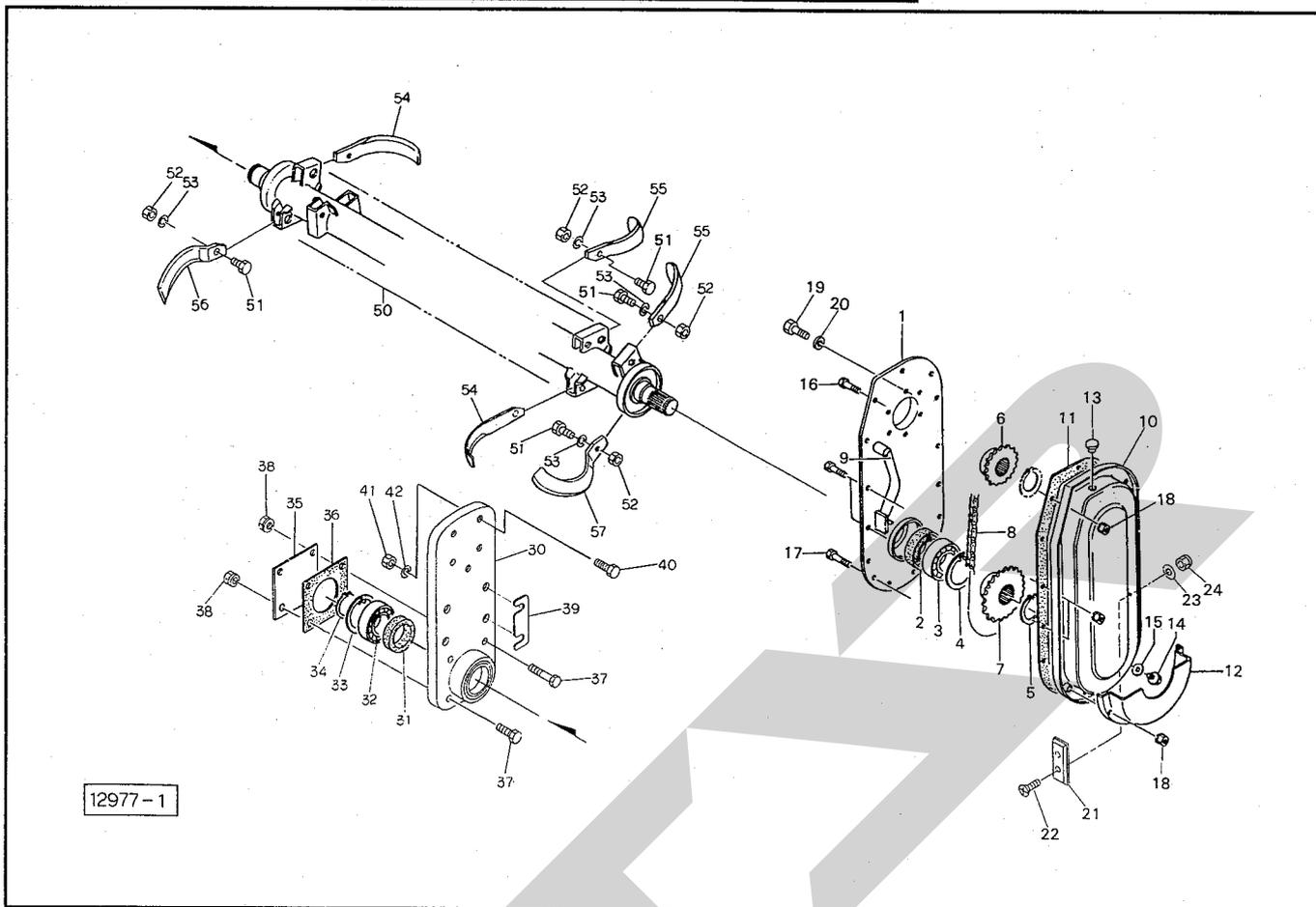
見出番号	部品番号	部 品 名 称	個数	備 考
1	0998521003	ギヤボックス	1	
2	0998532003	キャップ	1	
3	0007170000	チューユセン	1	
4	000338000M	プラグ ; M10	1	
5	0003390000	パッキン ; M10	1	
6	0998541002	PIC シャフト	1	
7	0000963000	PIC キャップ ; 35	1	
8	0739791002	マイタギヤ ; 18T	2	
9	J6007	ボールベアリング 6007	1	
10	J6305	ボールベアリング 6305	1	
11	J6306LU	ボールベアリング 6306LU	1	
12	D35508	オイルシール D35×50×8	1	
13	DHC110	Cガタトメワ アナ 110	1	
14	ORG110	Oリング G-110	1	
15	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	12	
16	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	12	
17	DC030	Cガタトメワ ジク 30	1	
20	0997431003	フレーム CP ; 1.8L	1	MPE1810
	1120890003	フレーム CP ; 2.0L	1	MPE2010
	1120910003	フレーム CP ; 2.2L	1	MPE2210
21	0997441003	フレーム CP ; 1.8R	1	MPE1810
	1120900003	フレーム CP ; 2.0R	1	MPE2010
	1120920003	フレーム CP ; 2.2R	1	MPE2210

MPE1810・2010・2210 水田ハロー ソクバンL.R.・ロータ・シロカキヅメ



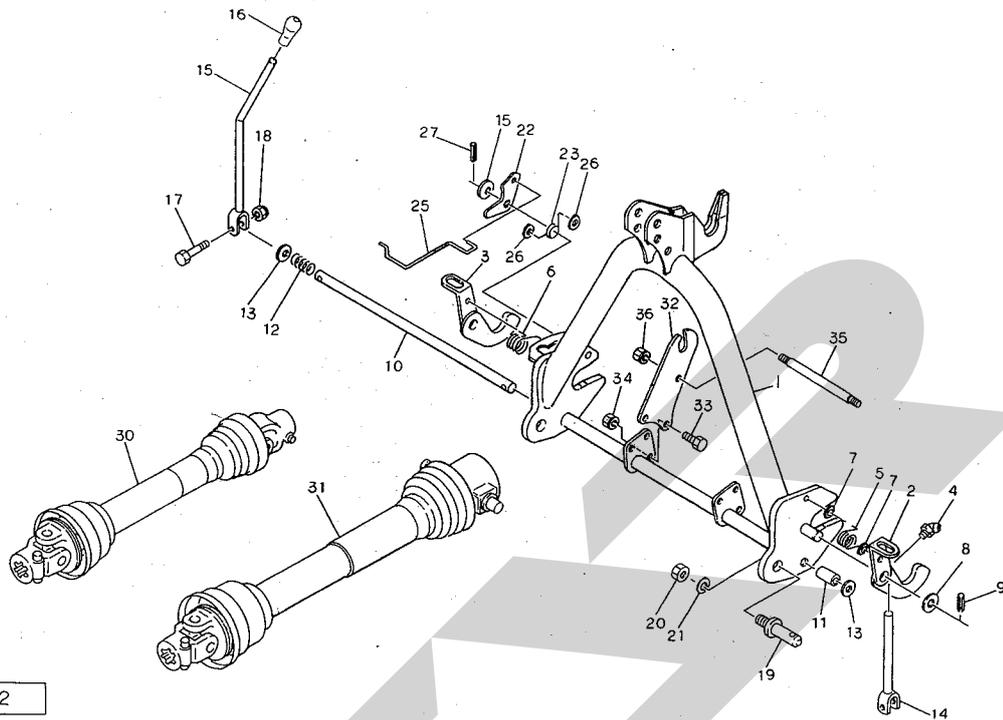
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0783942003	ソクバン CP ; L	1	
2	QLF40651101	ジクツキオイルシール QLF406511018	1	
3	J6207-C4	ボールベアリング 6207-C4	1	
4	DHC072	Cガタトメワ アナ 72	1	
5	DC035	Cガタトメワ ジク 35	1	
6	0757541002	スプロケット ; #60×11T	1	
7	0757551002	スプロケット ; #60×21T	1	
8	LAE60050	ローラチェーン 60×50L エンドレス	1	
9	0688920002	イタバネ	1	
10	1117700003	チェーンケース CP	1	
11	0688930000	チェーンケースパッキン	1	
12	0687852003	チェーンケースガード	1	
13	0007170000	チューユセン	1	
14	000338000M	プラグ ; M10	1	
15	0003390000	パッキン ; M10	1	
16	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	9	
17	BSZ08035	コガタボルト 7 M8×35	2	
18	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	11	
19	067856000M	ボルト ; M10×25	6	
20	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	6	
21	1117730000	テンションプレート	1	
22	CM06020	+サラコネジ M6×20	2	
23	WF061312	シールワッシャ WF061312	2	
24	NN06	ナイロンナット M6	2	

MPE1810・2010・2210 水田ハロー ソクバンL.R.・ロータ・シロカキヅメ



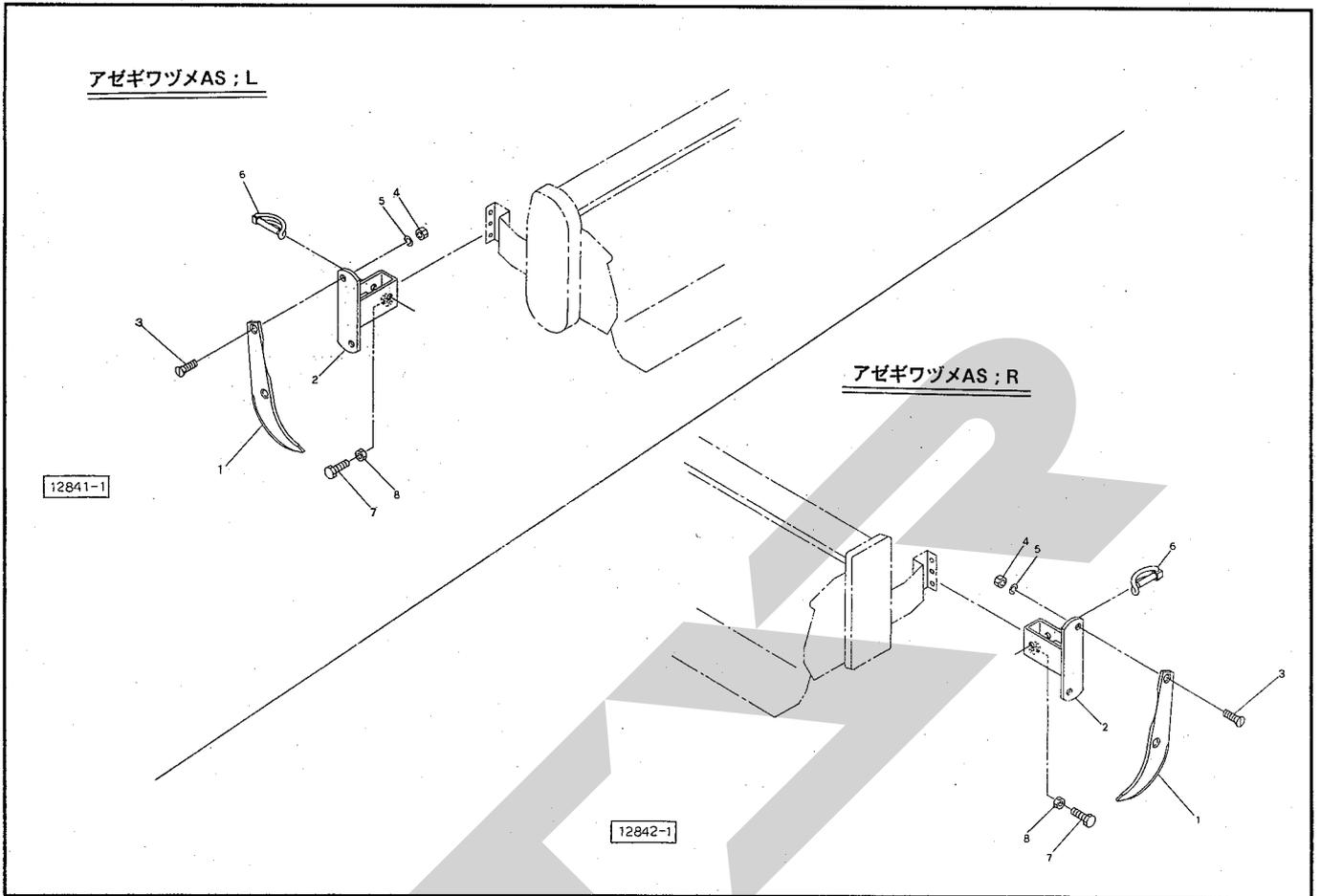
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
30	1117750003	ソクバン CP ; R	1	
31	QLF406511018	ジクツキオイルシール QLF406511018	1	
32	J6207-C4	ボールベアリング 6207-C4	1	
33	DHC072	Cガタトメワ アナ 72	1	
34	DC035	Cガタトメワ ジク 35	1	
35	078571200M	キャップ メッキ	1	
36	0785721000	パッキン	1	
37	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	4	
38	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	4	
39	068881100M	シム	2	
40	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	4	
41	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	4	
42	WSA10	バネザカネ 3ゴウ M10	4	
50	0997692003	ロータ ; 1.8	1	MPE1810
	099770200	ロータ ; 2.0	1	MPE2010
	099771200	ロータ ; 2.2	1	MPE2210
51	BZ12025	ボルト 8.8 M12×25	42	MPE1810
	BZ12025	ボルト 8.8 M12×25	46	MPE2010
	BZ12025	ボルト 8.8 M12×25	50	MPE2210
52	NZ12	ナット 8 2シュ M12	42	MPE1810
	NZ12	ナット 8 2シュ M12	46	MPE2010
	NZ12	ナット 8 2シュ M12	50	MPE2210

MPE1810・2010・2210 水田ハロー オートヒッチ3P・ジョイント



見出番号	部品番号	部 品 名 称	個数	備 考
1	115809000D	オートヒッチ CP ; S	1	3S、4S タイプ
2	115795000M	フック CP ; L	1	3S、4S タイプ
3	115796000M	フック CP ; R	1	3S、4S タイプ
4	ONB6	グリースニップル B M6	2	3S、4S タイプ
5	089217000M	スプリング ; L	1	3S、4S タイプ
6	099599100M	スプリング ; R	1	3S、4S タイプ
7	WRA06	ヒラザガネ M6	4	3S、4S タイプ
8	WRA20	ヒラザガネ M20	2	3S、4S タイプ
9	PS060040	スプリングピン 6×40	2	3S、4S タイプ
10	115820000M	シャフト ; S	1	3S、4S タイプ
11	115818000M	カラー ; 21.6×30	1	3S、4S タイプ
12	115819000M	スプリング ; A4.0×25×60	1	3S、4S タイプ
13	WRA20	ヒラザガネ M20	2	3S、4S タイプ
14	115801000M	レバーCP ; L	1	3S、4S タイプ
15	115803000M	レバーCP ; R	1	3S、4S タイプ
16	0006810000	ニギリ ; 14	1	3S、4S タイプ
17	BSZ08045	コガタボルト 7 M8×45	2	3S、4S タイプ
18	NNF08	フランジナイロンナット M8	2	3S、4S タイプ
19	000006200M	ローリンクピン ; O・I	2	3S、4S タイプ
20	NAA22150	ナット 4 1シュ M22×1.50	2	3S、4S タイプ
21	WS22	バネサガネ 2ゴウ M22	2	3S、4S タイプ
22	099603100M	アーム	1	3S、4S タイプ
23	099604000M	スプリング	1	3S、4S タイプ
24	WRA06	ヒラザガネ M6	2	3S、4S タイプ
25	099605000M	ガイド	1	3S、4S タイプ

オプション アゼギワツメAS ; L アゼギワツメAS ; R



見出番号	部品番号	部 品 名 称	個数	備 考
ASY	1124280000	アゼギワツメ AS ; L	1組	①1~8付
1	1124300006	アゼギワツメ ; L	1	
2	112432000D	ブラケット ; L	1	
3	SM14035	ーサラコネジ M14×35	2	
4	NZ14	ナット 8 2シュ M14	2	
5	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	2	
6	114931000M	デルタピン ; 13	1	
7	BZ08025	ボルト 8.8 M8×25	1	
8	NZ08	ナット 8 M8	1	
ASY	1124290000	アゼギワツメ AS ; R	1組	①1~8付
1	1124310006	アゼギワツメ ; R	1	
2	112433000D	ブラケット ; R	1	
3	SM14035	ーサラコネジ M14×35	2	
4	NZ14	ナット 8 2シュ M14	2	
5	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	2	
6	114931000M	デルタピン ; 14	1	
7	BZ08025	ボルト 8.8 M8×25	1	
8	NZ08	ナット 8 M8	1	

本社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
旭川営業所	070-8004	旭川市神楽4条9丁目3番35号 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
豊富出張所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
北見出張所	090-0001	北見市小泉302 TEL 0157-24-3880 FAX 0157-61-1344
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 01537-2-2624 FAX 01537-3-2540
花巻営業所	025-0312	岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1 TEL 0198-26-5741 FAX 0198-26-5746
仙台営業所	985-0845	宮城県多賀城市町前2丁目4番27号 TEL 022-367-4573 FAX 022-367-4846
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
名古屋営業所	480-0102	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
松本出張所	399-0033	長野県松本市大字笹賀5824-5 TEL 0263-26-5731 FAX 0263-26-5761
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	862-0939	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
都城営業所	885-0004	宮崎県都城市都北町3537-1 TEL 0986-38-1045 FAX 0986-38-4644